

## 2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー（武田クラス）		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

春学期を振り返って、仕事の大半がティーチングアシスタントたるものだったため、基本的に授業の感想が大半となる。

この授業を通じてまず一番実感したことは、今年の1回生の意識の高さだった。それは私たちが1回生のときには発表当日にサボる人がでたり、深く社会学について考えなかった人も多かったのに対して、今年の1回生は素直ですぐに修正点も受け入れて、発表などに生かしていた。1回生がとても真剣に授業に取り組んでくれているので、ティーチングアシスタントとなる私も、本当に真剣に発表を聞き、そして少しでもためになればと、意見を飛ばした。

私がそもそもこの授業のチューターをしようと思ったのには大きな理由があった。それは、ファーストイヤーセミナーは大学生活のスタート地点であり、その大学生活のスタートに立った1回生たちに少しでも有意義な大学生活を送るきっかけを作ってほしいというものだった。とはいうものの、これは授業の一環なので、「社会学を学ぶ」という観点から進めていった。実際にやっているうちに、1回生たちの顔つきはだんだんと笑顔が増えるようになっていった気がする。初めてのレジュメ作りに戸惑いながらも成功させ、グループワークでは迷走しながらもなんとか発表にこぎつけられた。最後の懇親会では、1回生から「授業という感覚があまりなかったです」「とても楽しく進められて、あんましんどいとは思わなかったです」といった感想が聞かれ、この授業は大成功だったと思う。

私自身も、1回生の立場に立って話さなければならないため、専門用語の使用は避けていった。とはいっても最初は「標本」やら社会統計学に関する難しい単語を羅列してしまったこともあったが、すぐに直すことができた。来年、仕事に就くときに営業に回ることもあるならば、必ず相手の立場に立って話すことは必要だろう。だから、それに気づけて、半年間、チューターをやって本当によかったと思う。

最後に武田先生、西脇さん、半年間、本当にお世話になりました。単なるバイトとしてではなく、様々なことを考えられたこのチューター業務は私にとってとても価値あるものになりました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

チューター業務への提案としては、業務報告の方法がやや面倒だったことです。これは私自身が4回生で学校にあまり行かない上に尼崎市に住んでいることがとても大きかったため、やや個人的な意見が含まれています。もう1つはチュータリングシステムへの記入の文字数が多かったことです。各項目400字は毎週やっていくのにはやや負担が大きかったです。ネタの問題というよりも、400字記入しなければならないという義務感を感じてしまいました。なので、字数の削減（200字くらい？）などのことを今後、検討していただけたらと思います。

しかし、社会学部の質を上げるものとして、このプロジェクトは必要なものだと感じました。